

## 東日本大震災に遭遇して ⑦

我が家のライフライン（電気：3 / 13 夜間夜半、水道：3 / 26 午前、ガス：4 / 3 正午過ぎ）は復旧し、これでそれなりの日常生活に戻れそうです。

大震災の折は安否を案じていただき、その後の被災生活にもあれこれご心配いただき、お見舞いメールやお電話をいただき、どれほど元気付けられたことか、本当にありがとうございました。

改めてお礼申し上げます。

振り返れば、運・不運と言ってしまうには今回の被害・悲劇は重すぎて、重々不適切と分かっていますが、つい自分には、「運」というか、「つき（luck）があった」というか、「恵まれていた」というようなものが沸き上がってきてしまいます、m(\_ \_)m。

実は、大震災当日の午前は、津波被害甚大だった荒浜にある農業園芸センターのクリスマスローズ展示を見て、閑上、名取、仙台空港方面の津波に飲み込まれた海岸線沿いの道路を通って帰宅しました。

そして、撮してきた写真を HP「雑学・フォトアルバム最新コーナー」にアップし終え、戸を開けて立って庭に向かってタバコを一服していると大地震（最近の HP 記事に貼り付けている花の写真は、その時に撮したものです）。

もし午後に行っていたら……。

被災後はガソリン不足が深刻ですが、翌日の3 / 12に古川まで行く予定があったので大震災当日の午前中に念のためにガソリンを満タンにしていたので、ここでも「ついていた」と思います。

（余談ですが、たばこ工場も大震災被害で減産のようですが、昨秋の値上げ前の買い溜めもまだあり、これも「ついていた」かな。）

更に何よりも「恵まれていた」のは、親戚、隣人、知人等が飲用水を運んできてくれたり、食品も差し入れてくださり、また、お風呂も親戚や隣人が声をかけてくださりお世話になりました。

今回の大震災に遭遇し、人の営みなど配慮しない自然の永久の巨大な営み（大陸プレート移動、等々）の前では、如何ともし難い「運」というようなものがあることを思い知らされると同時に、つくづく「人の生死は紙一重」と実感させられました。

それだけに、「いつ死んでもいいように、自分が納得し後悔しない生き方を心懸けよう！」と思うと共に、だからこそ、人との出会いと係わり合いの一瞬、一瞬を大事にしよう！と、改めて思っています。

これからも、何かとよろしくお付き合いください。